



## Q. 環境汚染被害への対応は

### A. 引き続き、県と連携して対応する

大口 司郎 議員



積みあげられた産業廃棄物

**Q** 青山神明地区に於いて、建物解体業者の産廃が毎日運び込まれ、隣接する住民に多大な被害を与えているが、どのように対応するのか。

**A** 質問の土地は、建設解体業者が産業廃棄物を積替え、保管

する施設として使用している。使用に際しては、県知事への届出及び産業廃棄物処理基準に基づいた施設整備が必要となるが、遵守されていない。12月2日、県が事業者に対し、改善指示書を渡したとの報告を受けている。今後も引き続き、県と連携した対応をする。

## Q. 洪水対策は

### A. 堂前川の

### 負担軽減を図る 対応策を検討

**Q** 近年集中豪雨被害が各地域で発生している。当町も11年前の東海豪雨では、多大な被害を住民及び企業等に与えた。その後一部地区では、河川改修等の工事が行われたが、まだ充分といわれていない状況であり、常に水害の危機と隣り合わせの生活を強いられる地区もある。どの様にしたら、安心安全に暮らせる町になるのか。新川流域被害は、他の流域からのもらい水によって発生したと言われている。事実か。町民の安心、安全の実現に向けての施策を問う。

**A** 東海豪雨以降、国や県は庄内川の洗堰の高上げや新川の床下が、また、豊山町は貯留施設の整備などにより洪水対策を実施した。今回の豪雨で町内の南西部において浸水被害が発生した。

最大の原因は、庄内川から大量の水が新川に流れ込み、大山川の水位が上昇したため。今後の対策は、小牧基地内の洪水抑制調査を参考に、堂前川の負担軽減を図る対策を検討する。